

# 有限会社吉工 環境経営レポート

(対象期間 2018年12月～2019年2月)



## 目次

1. 組織の概要,対象範囲	1頁
2. 実施体制	2頁
3. 環境経営方針	3頁
4. 環境経営目標	4頁
5. 環境経営目標の実績	5頁
6. 環境経営計画とその取組結果及び評価	6頁
7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	7頁
8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	8頁
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	9頁
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	10頁

2019年3月26日発行

# 1. 組織の概要,対象範囲

## 1.1 組織の概要

- 1) 名称及び代表者名  
有限会社 吉工  
代表取締役 宇都宮 哲
- 2) 所在地  
本社工場 神奈川県小田原市成田972番地  
※2019年3月1日に、登記上の本社を神奈川県小田原市府川24から、  
本住所に変更致しました
- 3) 環境管理の責任者及び担当者連絡先  
責任者 取締役統括マネージャー 宇都宮浩人 TEL:0465-38-2020  
担当者 取締役統括マネージャー 宇都宮浩人 TEL:0465-38-2019  
電子メール hiroto-u@yoshikoh.com
- 4) 事業活動内容  
プラスチック用粉碎機等のリサイクル機械及びサイクロン等の  
空送装置の企画設計製作、樹脂ペレット等の受託微粉碎加工

### 5) 事業の規模

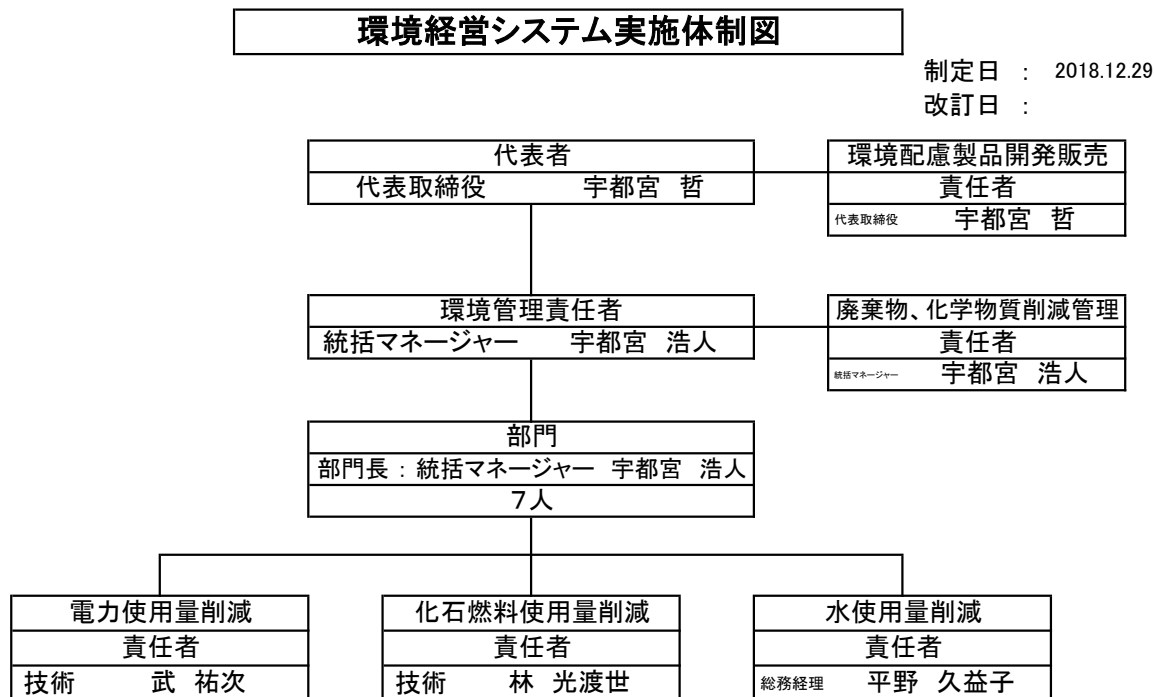
	事業年度		10月～9月	
	単位	28年	29年	30年
売上高	億円	0.8	1.2	0.97
従業員	人	9	9	8
延べ床面積	m <sup>2</sup>	554	554	554

## 1.2 対象範囲,レポートの対象期間及び発行日

全組織、全活動を対象とする。

- 1) 対象組織 「1.2)所在地」欄に記載
- 2) 活動 「1.4)事業活動内容」欄に記載
- 3) レポートの対象期間及び発行日 表紙に記載

## 2. 実施体制図



### 役割、責任及び権限表

対象者	役割、責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの対象組織・活動の明確化</li> <li>・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする</li> <li>・環境経営に関する方針(環境経営方針)を定め、誓約する</li> <li>・効果的で必要十分な実施体制を構築し、役割、責任及び権限を定める</li> <li>・環境経営に必要な資源(人・もの・資金・情報)の用意する</li> <li>・環境経営全体の取組状況を評価し、総括的見直し、必要な指示を行う</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への負荷と環境への取組状況の把握及び評価</li> <li>・環境関連法規などの取りまとめ</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画の作成・承認及び社内周知</li> <li>・全社組織へのEA21活動実施の統括</li> <li>・環境経営システム全体の構築、運用、維持に関する状況を代表者への報告</li> <li>・内外環境コミュニケーションへの対応、環境活動レポートの作成・公表</li> <li>・文書類の作成管理</li> <li>・取組状況の確認・評価、並びに問題の是正処置の統括</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画内容の部門内周知</li> <li>・部門内EA21活動の実施指揮及び部門内EA21活動結果のとりまとめ</li> <li>・教育・訓練の実施</li> <li>・環境上の緊急事態への準備及び対応</li> <li>・問題点の是正処置、予防処置の実施</li> </ul>
テーマ(環境経営目標)責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ(環境経営目標)責任者は、環境経営計画の環境目標活動項目を全社員が協力して確実に実施し、環境経営目標を達成できる様に努める</li> <li>・必要な場合には、環境経営計画の新たな環境目標活動項目の提案</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営目標、環境経営計画等に基づくEA21活動の実施</li> <li>・EA21活動に関する提案</li> </ul>

### 3. 環境経営方針

## 環境経営方針

### 〔企業理念〕

有限会社吉工はリサイクル機器企業として、新しいリサイクル技術の開発、独創性のある「製品作り」、「微粉碎加工」を柱として外部ではお客様の要望を満たし、内部では従業員の福祉向上をはかり、社会の発展に貢献致します。

### 〔環境経営の指針〕

当社は、企業理念を踏まえ、経営と環境が融合した環境経営システムを基盤とすることにより製造業として環境負荷の少ない事業活動並びに環境に配慮した製品・サービスの提供に積極的に取組みます。

環境経営への取組みに当たっては、環境関連法規等を遵守し、人材の育成を図り、以下の基本的方向に基づき全従業員参画により環境活動を実践すると共に環境経営の継続的改善を図ることを誓約します。

### 〔環境経営への取組の基本的方向〕

1. 二酸化炭素排出量の削減
  - ① 生産設備及び照明設備の省エネ化により電気使用量の削減に努めます。
  - ② エコドライブの徹底により車輛等の燃料使用量削減に努めます。
2. 廃棄物排出量の削減
  - ① 事業所から発生する一般廃棄物の削減に努めます。
  - ② 機械製造に係わる産業廃棄物の発生を抑制すると共に適正処理を行います。
3. 水使用量の削減
  - ① 事業所内の水使用量の削減に努めます。
4. 化学物質使用量の削減(管理)
  - ① 化学物質を使用する場合は、適切に使用量管理を行います。
5. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
  - ① 自社製品の環境性能の向上に努めます。
  - ② 顧客に有益な省エネ型製品・設備の導入を提案します。
  - ③ 受託微粉碎加工サービス提供における質的向上に努めます。

この環境方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

制定：2018年12月1日

有限会社吉工

代表取締役 宇都宮 哲

#### 4. 環境経営目標

No	環境方針項目	基準値		CO2 換算係数	年度目標				
		2017年度	2017年度 12~2月		2018年度		2019年度	2020年度	
					12~2月	12~9月			
1	電力使用量の削減	電力使用量		0.474 (東電)	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 3 %削減	基準値に対し 4 %削減	
		43,679	14,443		14,154	37,950	42,369	41,932	
	化石燃料使用量の削減	油種別消費量		2.322	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 3 %削減	基準値に対し 4 %削減	
		ガソリン <L>			737	3,149	3,768	3,729	
		3,885	752		L以下	L以下	L/年以下	L/年以下	
		軽油 <L>			2.624	0	135	201	199
		207	0		L以下	L以下	L/年以下	L/年以下	
LPG <kg>		3.002	31	89	103	102			
106	32	kg以下	kg以下	kg/年以下	kg/年以下				
化石燃料合計<L>			777	2,963	4,128	4,085			
計 (kg-CO <sub>2</sub> )		30,583	8,688	kg-CO <sub>2</sub> 以下	kg-CO <sub>2</sub> 以下	kg-CO <sub>2</sub> /年以下	kg-CO <sub>2</sub> /年以下		
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量の削減			基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 3 %削減	基準値に対し 4 %削減	
		8,822	2,642		2,589	7,205	8,557	8,469	
		一般廃棄物排出量の削減			データ把握	データ把握	2018年度データに対し 2 %削減	2018年度データに対し 3 %削減	
		データ無し			kg				
3	水使用量の削減	水道使用量			基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 2 %削減	基準値に対し 3 %削減	基準値に対し 4 %削減	
		202	53		52	171	196	194	
		m <sup>3</sup>		m <sup>3</sup> 以下	m <sup>3</sup> 以下	m <sup>3</sup> /年以下	m <sup>3</sup> /年以下		
4	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理			化学物質の適正管理徹底	化学物質の適正管理徹底	化学物質の適正管理徹底	化学物質の適正管理徹底	
5	環境配慮製品開発販売	環境配慮製品販売額			基準値に対し 1 %向上	基準値に対し 1 %向上	基準値に対し 2 %向上	基準値に対し 3 %向上	
		96,400	24,130		24,371	81,143	98,328	99,292	
		千円		千円以上	千円以上	千円/年以上	千円/年以上		

※二酸化炭素排出係数は2015年東京電力エナジーパートナー(株)調整後排出係数0.474kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用した。

※年度表記は10月~9月の会計年度と同一期間を適用した。

※化石燃料合計<L>は、軽油の使用量に換算した値である。

## 5. 環境経営目標の実績

No	環境経営方針 (キーワード)	環境経営目標項目	基準値	CO2 排出係数	活動期間(2018年12月～2019年2月)		
			(年度実績)		目標	実績	評価
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	電力使用量	0.474	基準値に対し 2 %削減	12,833 kWh	○
			14,443 kWh/年		14,154 kWh以下		
		化石燃料使用量の削減	油種別消費量	2.322	基準値に対し 2 %削減	8,897 kg-CO <sub>2</sub>	×
			ガソリン <L>		737 L以下		
			軽油 <L>		0 L以下		
			LPG <kg>		31 kg以下		
化石燃料合計<L>	702 L以下	1,072 L					
計(kg-CO <sub>2</sub> )	8,688 kg-CO <sub>2</sub>	8,514 kg-CO <sub>2</sub> 以下	8,897 kg-CO <sub>2</sub>	×			
2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量の削減	産業廃棄物排出量	2,510 kg以下	4,190 kg	×	
		2,642 kg	基準値に対し 5 %削減				※全て有価物であった為売却
		一般廃棄物排出量の削減	一般廃棄物排出量	データ把握	272 kg	○	
			データ無し				
3		水道使用量の削減 <水道使用量:m <sup>3</sup> >	水道使用量	基準値に対し 2 %削減	57 m <sup>3</sup>	○	
			53 m <sup>3</sup> /年	51.9 m <sup>3</sup> /年以下		※12月1日～4月1日	
4		化学物質使用量削減	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	化学物質の適正管理	○	
5	環境配慮製品開発販売	環境配慮製品販売額	24,130 千円/年	基準値に対し 1 %向上	58670 千円	○	
		24,371 千円以上					

※二酸化炭素排出係数は2016年東京電力エナジーパートナー実績の調整後排出係数0.474kg-CO<sub>2</sub>/kWhを適用した。

※①No.1～3の環境目標項目は、削減量が目標値以上で達成「○」、目標値未達で未達「×」と評価・達成度欄に記入する。

②No.4～5の環境目標項目は、取組があれば達成「○」、取組がなければ未達「×」と評価・達成度欄に記入する。

※水使用量の削減は明細が2カ月毎であり2月1日～2月28日の1カ月のみの把握が不可。産業廃棄物は全て有価で処理。

## 6. 環境経営計画とその取組結果及び評価

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール 12月 ~ 2月	取組	
						結果	評価
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	①ピーク電力管理の徹底 ②空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) ③不使用照明の消灯、不使用場所空調のオフ ④空調フィルターの3カ月清掃 ⑤不使用機器の電源オフ(待機電力カット) ⑥人感センサー取付	技術 武	(左記達成手段全て)	複数の設備同時入力を禁止し徹底管理を行った 冷房28℃以上、暖房20℃以下を徹底した 掲示をし実施 3カ月に1回実施 使用時のみ電源ONを心がけた 3月完成を目指し取組中	○
		2) 化石燃料使用量の削減	①エコドライブの励行 ②定期的自主点検を実施 ③タイヤの空気圧を適正値に保つ	技術 林	(左記達成手段全て)	エコドライブ10を自動車に備え、実施 毎月初めに点検実施 給油時に確認し、適正値に保っている	○
2	廃棄物排出量の削減	1) 産業廃棄物排出量の削減	①レンタル機器の活用 ②分別収集、リサイクルの推進 ③作り直し低減	宇都宮 浩人	(左記達成手段全て)	一時的に必要なものは借り、在庫を増やさない 分別し、リサイクルできるものは有価で排出 図面確認の徹底で削減	○
		2) 一般廃棄物排出量の削減	①紙類使用量の削減 ②分別収集、リサイクルの推進	宇都宮 浩人	(左記達成手段全て)	電子化を推進した 分別を徹底し、リサイクル可能なものはリサイクル	○
3	水使用量の削減	①手洗いや洗い物、洗車時の節水 ②節水栓の導入 ③洗浄作業の合理化	総務経理 平野	(左記達成手段全て)	節水表示し、節水に努めた 導入可能なところは節水コマを設置を検討中 洗浄水の再利用を検討中	○	
4	化学物質使用量の削減	①保管量の管理(指定数量の1/5以下) ②使用及び保管時の火気厳禁 ③適正容器、器具使用	宇都宮 浩人	(左記達成手段全て)	在庫確認で把握、1/5以下に管理している 消防法危険物の保管庫の近く及び使用時は火気厳禁 使用に合った容器・器具を使用した	○	
5	環境配慮製品開発販売	①自社製品の環境性能の向上(使用部品消費電力削減) ②顧客に有益な省エネ型製品・設備の導入を提案(デモ機にて提案)販売推進 ③環境配慮製品販売額の把握 ④新製品開発検討会(1回/3ヶ月)	宇都宮 哲 宇都宮 浩 人	(左記達成手段全て)	情報を常に入手して実施 12月に2つの展示会に出展 環境経営計画で毎月把握 平成31年2月25日に実施	○	

## 7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

### 6. 1 教育・訓練

取り組みを開始するに当たり、全員に環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画について、説明を行った。

### 6. 2 コミュニケーション

環境経営方針、環境経営目標、節電や節水のテンプレートを事業所内に掲示し、周知の徹底を図った。また、毎月の打合せで、環境経営計画の取組結果を報告し意識の向上を図った。

### 6. 3 実施及び運用

#### 1. 1) 電力使用量の削減

当社は昨年と比べて契約電力が大幅に増加してしまった。状況を関連従業員に説明し、設備使用開始時には電源入力を同時には行わず少しずつ様子にし、ピーク電力管理を徹底した。

空調の温度管理担当者を定め、空調は設定温度を基本夏期は28℃以上、冬は20℃以下に設定し、こまめに気候に合わせた。また、工場エアコンは2台有るが1台のみ使用する様にした。

トイレは使用時のみ点灯し、節電ポスターを掲示し不使用箇所の消灯、不使用場所の空調のオフの徹底を行った。

人感センサーの取付は、部品を購入し、作成を始めた。完成は、本年3月を予定している。



#### 1-2 化石燃料使用量の削減

全員意識を持って具体的取組内容に上げた事項は実施した。  
エコドライブは、エコドライブ10を全ての自動車に貼り付け、意識の向上を図っている。  
タイヤの空気圧は、給油時に測定し適正に保っている。  
定期的車両整備は、半年に1回整備に出す以外に、自主点検を毎月実施している。

#### 2-1 産業廃棄物排出量の削減

一時的にのみ使用するものは、レンタルで済ませ、産業廃棄物の原因を作らない様にしている。  
作業上の図面の確認、段取りをしっかりと行い作業場のミスが減らし作り直しの削減に努めた。  
当社の産業廃棄物としては金属類が主である。金属類は良く分別し、有価で販売する様にしている。

#### 2-2 一般廃棄物排出量の削減

主な一般廃棄物は紙類であるので、裏紙利用や連絡はメール、会議ではできるだけパソコン利用等の電子化を推進し、紙類の使用量は前年より10%程減させた。  
市役所のHPを参考にしゴミの分別を徹底し、リサイクルできるものは工業団地の資源物置場に排出した。排出量は把握した。

#### 3) 水使用量の削減

日常の洗い物等では流し放しをしない等の節水に努めた。

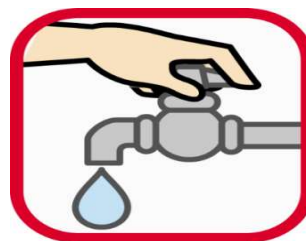
節水表示をし、意識の向上を図った。

洗車時は手元スイッチを使用し節水に努めた。

取付け可能な水栓には節水コマを取付けた。

洗浄作業では、水を再利用することを検討した。

実施は次年度から行う予定。



節水表示

#### 4) 化学物質使用量の削減

当社は消防法危険物として、製品の汚れ落としにシンナー類を使用・保管している。また、若干であるが塗料を保管している。危険物管理として保管庫で保管し数量が指定数量の1/5以下になる様に数量も把握する様にしている。

容器や器具は、漏れが生じないことや適正使用量にコントロールできるものにし、使用中は火気厳禁を徹底している。

消防法危険物の取扱・管理手順書を作成し、管理している共に毎年1回緊急事態対応訓練を実施している。

#### 5) 環境配慮製品開発販売

当社は基本的には顧客の要望にあわせて製品を製作しているが、打合せ時には積極的に使用部品削減、消費電力削減の提案を行っている。新製品開発は当社の今後の事業の根幹に係わることであるので、代表者をはじめ関係者が出席して3ヶ月に1回定期的に開催していく。また、情報収集と情報発信、販売促進をかねて、12月には2つの展示会に出展した。前年度の同時期より基準値より1%向上で、売上げは目標を¥24,371,000-以上とする。



## 8. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

No	環境経営方針項目	環境経営目標項目	環境経営目標 2018年12月～9月	目標達成手段	責任部門 責任者	スケジュール(2018年)
						8月 ~ 12月
1	二酸化炭素排出量の削減	1) 電力使用量の削減	電力使用量 37,950 kWh	①ピーク電力管理の徹底 ②空調温度の適正化(冷房28℃、暖房20℃) ③不使用照明の消灯、不使用場所空調のオフ ④空調フィルターの3カ月に1回清掃 ⑤不使用機器の電源オフ(待機電力カット) ⑥人感センサー取付	技術 武	(左記達成手段全て) →
		2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン使用量 3,149 L以下 軽油使用量 135 L以下 LPG使用量 89 kg以下	自動車燃料 ①エコドライブの励行 ②定期的自主点検を実施 ③タイヤの空気圧を適正値に保つ ④公共交通機関の利用促進		技術 林
		CO <sub>2</sub> 総量計 (kg-CO <sub>2</sub> )	25,922 (kg-CO <sub>2</sub> )			
2	廃棄物排出量の削減	1) 産業廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 7,205 Kg	①レンタル機器の活用 ②分別管理、リサイクルの推進 ③作り直し低減	宇都宮 浩人	(左記達成手段全て) →
		2) 一般廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 データ把握 Kg	①紙類使用量の削減 ②分別、リサイクルの推進		宇都宮 浩人
3	水使用量の削減	水使用量 171 m <sup>3</sup>	①手洗いや洗い物、洗車時の節水 ②節水栓の導入 ③洗浄作業の合理化(再利用等)	総務経理 平野	(左記達成手段全て) →	
4	化学物質使用量の削減	化学物質の 適正管理徹底	①保管量の管理(指定数量の1/5以下) ②使用及び保管時の火気厳禁 ③適正容器、器具使用	宇都宮 浩人	(左記達成手段全て) →	
5	環境配慮製品開発販売	環境配慮製品 販売額 81,143 千円 以上	①自社製品の環境性能の向上 ②顧客に有益な省エネ型製品・設備 の導入を提案(デモ機にて提案)販売推進 ③環境配慮製品販売額の把握 ④新製品開発検討会(1回/3ヶ月)	宇都宮 哲 宇都宮 浩人	(左記達成手段全て) →	

## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

### I. 遵守義務のある法規関係

区分	環境関連法規等名称	遵守状況確認・評価	
		チェック日	結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)(一般廃棄物の処理)	2019/2/16	○
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)(産業廃棄物の適正処理)	2019/2/16	○
	小田原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例	2019/2/16	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	2019/2/16	○
	使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	2019/2/16	○
大気汚染	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NO <sub>x</sub> ・PM法)	2019/2/16	○
	フロン排出抑制法	2019/2/16	○
消防	消防法(危険物関連)	2019/2/16	○
	小田原市火災予防条例	2019/2/16	○

当社に係る環境関連法規等は上記の通りですが、遵守状況を2019年2月に確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

## 10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

見直し実施日	2019年3月26日 ( <input type="checkbox"/> 定期見直し <input checked="" type="checkbox"/> 臨時見直し )		
見直し対象期間	2018年12月 1日 ~ 2019年2月28日		
出席者	代表者、環境管理責任者		
前回の見直し記録より指示への取組結果	今回が最初の代表者による全体の評価と見直しにつき、前回の指示事項は無し		
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況(環境関連法規等取りまとめ表兼遵守確認評価表による) ②環境経営目標の達成状況及び環境経営画の実施状況、その評価結果(環境経営計画兼実績書による) ③適用範囲、実施体制 ④問題点の是正処置及び予防処置の結果(是正／予防処置報告書による) ⑤外部からの環境に関する苦情等の受付結果(外部コミュニケーション記録による) ⑥その他(法規制の動向や取引先からの「グリーン調達」の情報等)		
代表者による評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価)		
	社員一人一人が各自の役割を理解して取組を行い、目標達成に向けて活動した。法規制の順守状況には問題なく、是正の必要な問題や外部からの苦情も発生していません。環境経営システムは現在のところ有効に機能している。		
	【環境経営への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)		
	目標項目	目標達成状況	経営計画実施状況
	CO2排出量の削減	×	○
	廃棄物排出量の削減	○	○
水使用量の削減	不明	○	
化学物質使用量の削減	○	○	
環境配慮製品開発販売	○	○	
代表者による見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的な指示事項	【環境経営方針】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	来年度も方針を維持する。特に「受託微粉碎加工サービス」に力を入れていく考えである。		
	【環境経営目標及び環境経営計画】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	業種の都合上、数値が安定しないのは承知である。個々では無く、全体として目標、計画に近づける様にする。		
	【実施体制】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
	現在の体制を維持する。		
【環境経営システム等】 変更の必要性 : <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
今期はシステムの見直しは行わないが、目標未達が連続するようであれば、その必要においてシステムの変更を考慮する。			
【総括】(環境活動レポートに転記)			
期間が短期であった事と、初めての取り組みであった為、まだまだ改善すべき事項が多く残っていると感じている。CO2排出量の削減については、展示会出展の時期と重なり軽油を使用する時期と重なっていた。しかしこの時期の売り上げは昨年度より増加している為、今後はCO2削減をしながら売り上げに影響がある様に検討をする。この取り組みが当社を環境面から見直す良いきっかけとなった。これからの会社経営に更なる良い影響が出る様努力をする所存である。			